

## <患者さんへの説明文書>

研究課題名：2型糖尿病におけるSU薬とDPP4阻害薬併用患者の夜間低血糖について  
—FGMによる検討

研究責任医師：三家登喜夫

### 研究概要

糖尿病患者さまに対する薬物療法としては、注射薬や経口薬（飲み薬）などさまざまな薬剤がそれぞれの病態に合わせて投与されています。その中でも、インスリン（膵臓に存在するホルモンで血糖値を下げる作用を有する）の分泌が残存している患者さまに対しては、経口薬としてスルフォニール尿素（SU）薬とDPP4阻害薬（いずれもインスリン分泌促進作用がある）の併用投与を行っている場合が少なからず存在します。こういった患者さまでは、薬の作用が強く出て血糖値が下がりすぎる（低血糖）可能性があります。低血糖になった時には、冷や汗をかいたり、手が震えたり、さまざまな自覚症状を訴えることが多いですが、ご高齢の方などでは自覚症状がわからない（無自覚性低血糖）場合があります。特に睡眠中には自覚しない場合が多いとされています。この夜間睡眠中の無自覚性低血糖は、認知機能や心血管合併症に悪影響を及ぼすとされています。

一方、血糖値を簡便に連続的に測定する検査法としてFGM（Flash Glucose Monitoring：上腕部に500円硬貨程度の径2.5cmの円盤状のセンサーを付着させ、14日間連続的に血糖値をモニタリングすることができる装置で、装着したまま入浴も可能）が開発され臨床応用（保険適応）されています。当院では上記のような患者様に対してFGMを用いて血糖値をモニタリングすることにより、夜間の無自覚性低血糖を起こしている患者様を数多く発見し糖尿病診療に活かしてまいりました。そこで、そういった臨床データを学会や論文として発表することを予定しています。その際には多くの患者様の測定値を平均値等として表現するために、患者様個人を特定されることはなく個人情報完全の保護されています。

つきましては、あなた様のFGM検査のデータを学会発表や論文とし投稿する際に使用させていただきます。もしご同意いただけたら別紙にサインをお願いします。

2018年10月

府中病院糖尿病研究所

研究課題名：2型糖尿病におけるSU薬とDPP4阻害薬併用患者の夜間低血糖について  
—FGMによる検討

研究責任医師：三家登喜夫

・別紙の研究要旨を理解し私のFGM検査のデータを学会発表や論文投稿に使用することに同意します。

西暦            年            月            日

氏名

連絡先：〒594-0067 大阪府和泉市肥子町1-10-17  
府中病院糖尿病研究所  
三家登喜夫  
電話：0725-43-1234